

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成25年4月18日(2013.4.18)

【公開番号】特開2012-144742(P2012-144742A)

【公開日】平成24年8月2日(2012.8.2)

【年通号数】公開・登録公報2012-030

【出願番号】特願2012-99105(P2012-99105)

【国際特許分類】

C 09 J 201/00 (2006.01)

C 09 J 7/02 (2006.01)

B 32 B 27/00 (2006.01)

【F I】

C 09 J 201/00

C 09 J 7/02 Z

B 32 B 27/00 M

【手続補正書】

【提出日】平成25年3月1日(2013.3.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ガラス転移温度(T_g)が0以上の中 T_g ポリマー(A)と、この高 T_g ポリマーよりも低い T_g を有し、感圧接着性を示す低 T_g ポリマー(B)および溶剤を含む溶剤型再剥離用粘着剤組成物であって、

上記粘着剤組成物中の高 T_g ポリマー(A)と低 T_g ポリマー(B)の合計量を不揮発分で30質量%に調整した後、密封して25で24時間放置した場合に、高 T_g ポリマー(A)と低 T_g ポリマー(B)とが相分離し、

上記粘着剤組成物から得られる粘着剤層において、高 T_g ポリマー(A)と低 T_g ポリマー(B)とが相溶することなく海島構造を形成していることを特徴とする溶剤型再剥離用粘着剤組成物。

【請求項2】

上記粘着剤組成物を架橋させずに得られた塗膜について動的粘弹性を測定した場合、上記高 T_g ポリマー(A)に由来するtanのピークと、上記低 T_g ポリマー(B)に由来するtanのピークとが別々に観察されるものである請求項1に記載の溶剤型再剥離用粘着剤組成物。

【請求項3】

上記高 T_g ポリマー(A)と上記低 T_g ポリマー(B)との合計量を100質量%としたときに、高 T_g ポリマー(A)が4~20質量%、低 T_g ポリマー(B)が80~96質量%である請求項1または2に記載の溶剤型再剥離用粘着剤組成物。

【請求項4】

上記低 T_g ポリマー(B)が連続相であって、上記高 T_g ポリマー(A)が島状に分散して存在しているものである請求項3に記載の溶剤型再剥離用粘着剤組成物。

【請求項5】

請求項1~4のいずれかに記載の溶剤型再剥離用粘着剤組成物から得られた粘着剤層が支持基材の少なくとも片面に形成されていることを特徴とする再剥離用粘着製品。

【請求項 6】

ヘイズが3%以下である請求項5に記載の再剥離用粘着製品。

【請求項 7】

厚み20μmの粘着剤層が厚み38μmのポリエチレンテレフタレートフィルム基材上に形成された粘着製品を用いてアクリル板に対する180°粘着力を測定した場合に、0.3m/分の低速剥離では0.05~0.3N/25mm、30m/分の高速剥離では0.5~3N/25mmであり、かつ高速剥離における粘着力を低速剥離における粘着力で除した値が15.0以下である請求項5または6に記載の再剥離用粘着製品。